

2021年12月20日

株式会社高島屋

第32回（2021年度）タカシマヤ文化基金 受賞者・助成先決定

2021年11月12日に行われた公益信託タカシマヤ文化基金運営委員会において、第32回（2021年度）タカシマヤ美術賞の受賞者および助成団体が下記のとおり決定いたしました。

■ タカシマヤ美術賞（助成金 各200万円）：3名

- 堀江 栞（ほりえ・しおり）さん〈日本画〉
- 井川 健（いがわ・たけし）さん〈漆芸〉
- 森永 邦彦（もりなが・くにひこ）さん〈ファッション〉

■ 団体助成（助成金 2団体で200万円）：2団体

- 静岡県立美術館（所在地：静岡県静岡市）
- 一般社団法人 戦没画学生慰霊美術館 無言館
（所在地：長野県上田市）

タカシマヤ文化基金について

高島屋は、1909年に広く一般の方に美術品を紹介する「現代名家百幅画会」を開催、1911年に美術部を創設するなど、人々の暮らしの中に美と文化を提供し続けてきました。そのような歴史と伝統のもと、1990年に公益信託タカシマヤ文化基金を設立、新鋭作家や美術文化の保存・発掘・振興に寄与する団体などへの助成を行っています。基金は専門家からなる運営委員会によって運営され、高島屋はオブザーバーとしての役割を担っています。

新鋭作家に対する賞（タカシマヤ美術賞）は、1作品への賞ではなく、その作家のこれまでの活動と将来性から選考するものとなっています。毎年、「タカシマヤ美術賞」として作家には一人200万円、団体に対しては各回総額200万円を上限とした助成を行っております。

第1回～第5回は「新鋭作家奨励賞」、第6回以降は「タカシマヤ美術賞」として昨年度31回を迎え、これまでの受賞作家は85作家、助成団体はのべ67団体に達しました。

※2022年1月末に予定しておりました贈呈式は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止とさせていただきます。

■タカシマヤ美術賞（助成金 各 200 万円）

○堀江 栞（ほりえ・しおり）さん〈日本画〉

◆動物や人物を主な題材とし、静謐な世界の中にも悲しみや心の痛みをダークな背景に多彩な色使いで表現する作風が特徴。「心から描きたいと思う題材としっかり対峙することで、見えないものを引き出したい」と語る。数多くの挿画や挿絵も手掛ける。

1992年フランス生まれ。2014年多摩美術大学美術学部絵画学科日本画専攻卒業、2016年に五島記念文化賞受賞後パリで1年間滞在制作を行う。

【主な展覧会・受賞歴・その他活動】

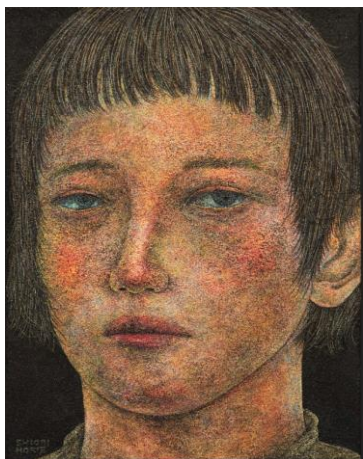
2014年 堀江栞展（加島美術）、多和田葉子『献灯使』（講談社 2014）装画・挿画

2020年 第6回世田谷区芸術アワード”飛翔“美術部門 受賞

2021年 五島記念文化賞海外研修帰国記念展 堀江栞「声よりも近い位置」

(√k Contemporary, 加島美術)

VOCA22 VOCA 佳作賞



輪郭 #17 2020年



ここに在ることX 2020年



○井川 健（いがわ・たけし）さん〈漆芸〉

◆最近の作品ではヤシの葉を主たる造形材として使用し、漆を鏡面レベルにまで磨きあげた壮大なスケール感のシャープな作風を得意とする。自らの創作活動に打ち込む傍ら、大学で教鞭を取り次世代育成にも尽力。

1980年兵庫県生まれ。2009年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程博士（美術）取得、現在佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授

【主な展覧会・受賞歴】

2005年 第45回日本クラフト展 優秀賞

2016年 IKI 粹 SUI 展（染・清流館、京都）

2017年 第35回京都府文化賞奨励賞、金沢・世界工芸コンペティション大賞

2018年 風詠抄一譚（日本橋高島屋6階美術画廊）

2021年 佐賀銀行文化財団新人賞



羽化 2015年

photo by Mizuno Naoki



風孕む I 2019年

photo by Kuga Hideki



○森永 邦彦（もりなが・くにひこ）さん〈ファッション〉

◆継ぎ接ぎの手縫いの服作りから始まり、今までにないファッションを生み出そうと最先端のテクノロジーを取り入れ、光の反射する素材使いや球体・立方体などの近未来的デザインを手掛ける。日常と非日常をテーマに様々な異分野とのコラボレーションを行い、国内外の美術館での展覧会にも多数参加。

1980年東京都国立市生まれ。2003年早稲田大学社会科学部卒、大学時代からバンタンデザイン研究所に通い、卒業と同時に「ANREALAGE」（アンリアレイジ）を設立。

【主な展覧会・受賞歴・その他活動】

2005年 東京コレクションデビュー（東京タワー）

ニューヨーク新人デザイナーコンテスト「GEN ART 2005」アバンギャルド大賞

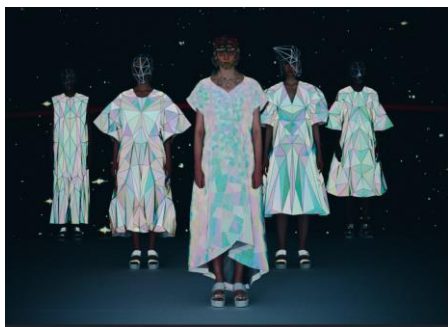
2014年 パリコレクション進出

2017年 パリコレ以降の作品を展示した「A LIGHT UN LIGHT」展開催

2019年 第37回毎日ファッション大賞受賞

フランスの「LVMH PRIZE」ファイナリストに選出

2021年 ドバイ万博日本館公式ユニフォーム担当、「竜とそばかすの姫」（細田守監督作品）主人公ベルの衣装を手掛ける



左・中央とも ANREALAGE 2022S/S COLLECTION

“DIMENSION” 2021年 ©Masaya Tanaka

■団体助成（助成金 2 団体で 200 万円）

○静岡県立美術館（所在地：静岡県静岡市）

助成内容

「輞川図鑑」修理後初公開/静岡県・浙江省
友好提携 40 周年記念シンポジウム
「輞川図と蘭亭曲水図」開催



静岡県立近代美術館は、1986 年の開館以来、東西の山水・風景画の収集を大きなテーマとしております。2018 年度に当館に収蔵された「輞川図鑑」は、唐代の詩人、画家である王維の別荘周辺の風景をさまざまに描き分けた作品で、3 年に及ぶ大規模な修理を実施しました。本修理の終了を記念し、2022 年 11 月から翌年 1 月にかけて、修理後の「輞川図鑑」の全貌を初公開します。また、2022 年は静岡県・浙江省友好提携 40 周年のため、「輞川図鑑」の展示に併せ、浙江省にある蘭亭を描く「蘭亭曲水図」の名品を特集します。本展に併せてシンポジウムを開催し、現在の中国絵画研究をけん引する、あるいは、江戸絵画における蘭亭曲水図の展開に詳しい気鋭の研究者を招聘します。また、本シンポジウムの報告書を作成する予定で、本シンポジウムの諸費用に助成金を活用します。（静岡県立美術館）

○一般社団法人 戦没画学生慰霊美術館 無言館

（所在地：長野県上田市）

助成内容

戦没画学生人名録第三版の刊行



一般社団法人戦没画学生慰霊美術館無言館は 1997 年に開館し、日中戦争、太平洋戦争下、美術学校で学びながら出征、戦死した画学生約 500 名余の作品を収蔵展示すると共に、今もどこかで発見されるのを待つ画学生の遺作や遺品の発掘・収集を呼びかける活動を行っています。当館は 2022 年 5 月に開館 25 周年を迎える記念行事として、「戦没画学生人名録」第三版の刊行に取り組んでいます。戦時下の厳しい環境においても芸術表現に打ち込んでいた画学生の「生の痕跡」を一冊にまとめることを目指し、画学生一人ひとりの出自、経歴、家族関係、美術学校時代のエピソード等を調査し、編集していくために助成金を活用します。（一般社団法人戦没画学生慰霊美術館 無言館）

以上